

とくしま糖尿病協会会報

発行
徳島県糖尿病協会
〒770-8503
徳島市蔵本町3-18-15
徳島大学 先端酵素学研究所
糖尿病臨床・研究開発センター内
会長 松久 宗英

徳島県糖尿病対策班 挨拶 川島病院 野間 喜彦

1961年の日本糖尿病協会の発足メンバー10支部の1つが徳島県だそうです。私は、1989年に徳島に生まれました。その頃から秋の糖尿病週間事業(今の糖尿病フォーラムなど)に参加したり、1990年代には、医療スタッフ登録のお手伝いなどもしました。徳島県糖尿病協会は、ずっと1県1友の会という独特のシステムで、わずかなボランティアがようやく運営を支えていて、新規参加が困難で、個々の病院としての参加や活動がしにくい状況でした。そこで、組織を現在のような、県支部と多数の友の会からなる全国共通の構成になるよう改めました。「川島病院糖尿病友の会」など多くの友の会はその頃発足しました。この動きをてこ入れしようと、2004年秋に日本糖尿病協会主催の糖尿病シンポジウムin徳島を開催していただき、励みになりました。その後、友の会、会員数が増加しているのをうれしく思っています。

眉山山頂電波塔をブルーライトアップしたり(今は阿波おどり会館)、日本糖尿病協会登録医、療養指導医、歯科医師登録医制度にも関与してきました。

徳島県糖尿病協会の活動は、多岐多様となり、その役割はさらに重要となっています。現在の事務局は非常に有能で、意欲があり頼りがいがありますので、今後も益々指導力を発揮し、リードして行って頂きたいと思います。私たちの友の会活動もさらに活発にするため、いろいろとやっていかなくてはと決意した次第です。



コラム ADA (米国糖尿病学会) 報告：2017年6月サンディエゴ

徳島県糖尿病協会会長 松久宗英

ADAにおいて、SGLT2阻害薬と持効型インスリンのエポックメイキングな臨床研究が発表された。CANVAS試験(プラセボ対照無作為化二重盲検試験:観察期間:平均3.1年))において、心血管リスクの高い2型糖尿病患者10,142人を対象に、SGLT2阻害薬カナグリフロジンは心血管リスクを有意に減少させ(ハザード比:0.86, $p=0.02$)、さらに顕性アルブミン尿への進展が27%、腎複合エンドポイント(eGFR低下、腎代替療法の開始、腎疾患による死亡)は40%も抑制された。一方で、カナグリフロジンは、下肢切断率を1.97倍上昇させた。EMPA-REG OUTCOME試験と同様にSGLT2阻害薬の心血管イベント及び腎症への有効性が確認されたが、危惧すべきリスクも明確となった試験であった。



また、DEVOTE研究では長時間作用する持効型インスリンのデグルデクとグラルギンの無作為化二重盲検試験の結果が示された。両薬剤の心血管イベントへのリスクは同等で安全性が確認され、デグルデクでは全日特に夜間の重症低血糖を半減させることが示された。

血糖管理を行う上で、SGLT2阻害薬の血糖管理を超えた有効性は糖尿病治療を切り拓くものであり、また低血糖のリスクの低い安全なインスリン治療の確立も高齢糖尿病患者の多いわが国では喫緊の課題である。大規模臨床研究の成果をどのように一人一人の患者に資することができるか、製薬会社主導の研究からバトンは医師に託された。

最後にAlvin C Power先生(Vanderbilt大学教授)の会長講演を紹介しておきたい。糖尿病学の課題として①1型および2型糖尿病の成因が未解明、②高血糖の分類方法が未整備、③持続的な肥満治療や行動療法への有効なアプローチ方法が未開発、④糖尿病治療のエビデンスに基づく個別化、最適化などこれからサイエンスが克服すべき課題が山積する状態である。しかし、米国大統領の交代によりサイエンスが危機に瀕し、「今みんなで声を上げよう」と強いメッセージが送られた。医療をけん引する礎である医学はいつの時代にも高いニーズと効果をもつものであり、科学研究水準の低下が叫ばれる我が国においても、肝に銘じることである。

平成29年度「徳島県糖尿病協会交流会」

徳島大学 先端酵素学研究所糖尿病臨床・研究開発センター 鈴木 麗子

平成29年5月28日、徳島県医師会館において、「徳島県糖尿病協会交流会」を開催しました。11施設から、82名(患者36名、医療者46名)の参加がありました。今年のテーマは、『「糖尿病患者さんの運動療法」～初夏の徳島中央公園を散策してみませんか～』としました。徳島県鳴門病院の藤中先生から「運動前に知っておくべきこと」、同病院の出口先生から「運動する時に知っておくべきこと」について、講演をしていただきました。藤中先生から運動するタイミングに注意すること、補食の準備や運動する前にSMBGを行うことが話され、また運動するには、運動用の靴を準備すること(クッションが良い靴、靴下を履く)、歩数計や活動量計を持参し運動コースを選択することが必要である。出口先生は寝たきりになるとふくらはぎや太もも(前面)の筋肉がやせるため、自分に合った運動を探し継続することが必要であると話されていました。

その後、各班の患者さんと医療者がフリートークしながら、昼食のお弁当と低カロリーのスイーツを食べました。そして斑ごとにクイズをしながら、医師会館から鷲の門まで徒歩で往復しました。最後にクイズの回答と表彰式を行い、1位、2位、3位、ブービー賞の方に素敵な景品をお渡ししました。

皆様1日を楽しんで帰られました。



「ガリクソン賞」受賞 おめでとうございます！！

AWADM.comの代表世話人である藤岡義光様が、日本糖尿病協会のガリクソン賞を受賞されました。

ガリクソン賞とは1型糖尿病の患者さんで、一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍する人や、小児糖尿病サマーキャンプスタッフとしての貢献の著しい方に送られます。

ビル・ガリクソンは、アメリカで野球選手として活躍していた21歳の時に1型糖尿病を発症しました。1998年から2年間巨人で活躍し、アメリカで1994年に引退しました。「ナイスコントロール：ガリクソン投手の贈り物」の収益が糖尿病協会に寄付されたことから、その基金によって制定された賞です。

この度、栄えあるガリクソン賞を頂き、大変光栄に思っています。今まで支えて下さった、全ての方々に感謝しています。まさか、この僕が・・・しかもあのガリクソン賞を頂けるとは思っていませんでした、ただただ驚いております。

ガリクソン投手のように夢や希望を与えるような人に少しでも近づくことができるよう、毎日しっかりと生きていきたいと思っております。ありがとうございました。



藤岡義光

「とくしま ボランティア賞」受賞 おめでとうございます！！

長年にわたり小児1型糖尿病を支援してきた徳島つぼみの会が「とくしまボランティア賞」を受賞しました。その代表者からコメントをいただきました。

徳島つぼみの会の徳島ボランティア賞受賞によせて

徳島つぼみの会会長 遠藤千代子
徳島大学病院小児科 小谷裕美子

徳島つぼみの会は、1型糖尿病の子供たちのためにサマーキャンプを中心とした活動を続けており、今年でキャンプは38回を迎えます。現在の会長さんから「子どもが発症したときに、今の医学では完治することのない病気と聞き、これからどうなるのだろうと不安ばかりだった時につぼみの会の存在を知りました。同じ病気を持った家族会があったことはとても心強く思いました。あの時お世話になったように、すこしでもお役に立つことができればと会長をお受けすることにしました。」と、つぼみの会への言葉を頂きました。

徳島ボランティア賞を頂けることも光栄でしたし、改めてつぼみの会の意義を考える機会となりました。受賞と一緒に喜んでいただいた糖尿病臨床・研究開発センターの松久宗英先生に感謝申し上げます。



平成28年度 ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰等 伝達式
「とくしまボランティア賞」 徳島県知事表彰式 平成28年11月29日

徳島健生病院 「たんぼぼ会」

徳島健康生活協同組合 徳島健生病院 川上あき子

「たんぼぼ会」は徳島健生病院の糖尿病患者会です。一時活動を休止していましたが、「患者会で仲間と交流を深めたい」と声が聞かれ、2006年に再発足し11年目に入りました。現在会員数は19名。同じ病気を持つ人と語り合い、糖尿病の知識を深めることで前向きに療養に取り組めることを目的とし、毎月活動を行っています。

主な年間行事は、お花見、調理実習、バスツアー、学習会です。今年のお花見は、田宮公園までウォーキング。満開の桜の下でお弁当を食べながら、クイズ大会を行いました。会員さんから「来年もこのメンバーで参加したい」との声が聞かれました。また、会員さん自身が企画した「ひょうたん島クルーズツアー」も実現し、会員さん同士のつながりも密になったと思います。たんぼぼ会は笑いがたえずとても楽しい会ですが、年々高齢化しているのが現状です。現在会員さんを大募集中。会員数を増やし、楽しく糖尿病と付き合っていけるよう活動の幅を広げていきたいと思っています。



糖尿病患者会「しろくま会」 おおしま内科皮膚科クリニック

新しく患者会が発足しました！！

平成29年7月26日に発足しました「しろくま会」をご案内させていただきます。

当院の糖尿病教室に参加して下さっている患者さんを中心に患者会を発足させました。名前の由来は、動物園でお馴染みの愛嬌のある白クマです。でも実際は強くて怖い白クマと糖尿病を重ね合わせました。甘い尿が出る緩い病名なのに、食事や運動など毎日の療養がとても重要で、更に病気を理解して治療や合併症にも気を配らないといけない病気について、会の皆で対峙して行こうという気持ちを込めて名付けました。色々なイベントを通して、糖尿病への理解を深め、より良い療養生活を目指して貰いたいと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。

写真は患者会での勉強会の模様です。80kcalの3種類のスイーツを用意して、食前後の血糖値をチェックしました。糖質や脂質、繊維質の量の違いでの変動を実際に体験し、その理解に繋がるレクチャーをしている所です。



代表；大島康志
患者会会長；吉田清

第38回徳島つぼみの会

小児1型糖尿病サマーキャンプ in ふれあいの里さかもと

徳島大学 医科学教育部 血液・内分泌代謝内科学分野
石津 将

徳島つぼみの会は毎年、小児の糖尿病患者に様々なレクリエーションを通して、生活と血糖値の関連の理解や、自己血糖管理の推進等を目的とした「小児1型糖尿病サマーキャンプ」を開催しており、今年ではや38回目を迎えました。3泊4日のキャンプには、キャンパーの子供たちを中心に、ご家族や医療スタッフ、学生ボランティアなど合わせて約80名が参加しました。

キャンプ期間中は天候にも恵まれ、子供たちは大声で走り回ったり、肝試しでは大泣きしたりと、非常に賑やかな4日間でした。また、自分たちでピザやケーキを作ったり、食事の際に必要なインスリン量を計算したりと、1型糖尿病に関する理解も深まったのではないかと思います。今回のキャンプでは、子供たちだけでなく、医療スタッフや学生ボランティアにとっても多くの経験ができたと思います。それぞれが今回の経験を生かして、また来年成長した姿で再会出来ることを楽しみにしています。



ちゃんと歯磨きできたかな



全員参加の大運動会

Team Diabetes Tokushima

糖尿病患者さんと医療関係者のためのランニングクラブ
Team Diabetes Tokushima を立ち上げます！

1時間のジョギングで寿命が7時間延長することがわかっています。2型糖尿病、特にメタボリックシンドロームを合併する場合はジョギングなどの有酸素運動療法が重要です。わかっているけど、一人だとなかなか続かないものです。



そこで、糖尿病患者さんが楽しくジョギングができる場としてTeam Diabetes Tokushimaが発足しました。既に全国ではTeam Diabetes Japanというランニングクラブが活躍しています。参加資格は糖尿病患者さんやその関係者、医療関係者。参加の際は主治医の許可が必要です。

現在参加者を募集中です。明るく楽しいランニングクラブを目指し、練習会やリレーマラソン参加など予定しています。夢はとくしまマラソンにチャレンジ！また、走るのはちょっと苦手だけど、ランナーを応援したいサポーターの方も同時に募集します。興味のある方は是非ご連絡下さい。

代表世話人 白神 敦久

連絡先

徳島県糖尿病協会
(徳島大学 糖尿病臨床・研究開発センター)

Mail: dtrc@tokushima-u.ac.jp





11月14日は「世界糖尿病デー」です。 徳島県のブルーライトアップとイベントのご紹介

世界糖尿病デーは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために、2006年12月20日に国連総会において「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」が採択され、公式に認定されました。11月14日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、糖尿病治療の画期的な発見に敬意を表し、この日を糖尿病デーとして顕彰しています。

青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」がシンボルマークです。国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、「Unite for Diabetes」（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

当日は世界各地でブルーライトアップを灯す行事が行われています。徳島県では、今年度も阿波おどり会館など下記と、他にも徳島県立中央病院、徳島市民病院、美馬市デ・レイケ公園、川島城などでライトアップが予定されています。世界糖尿病デーに関する徳島県の今年度のイベントを紹介します。

《 2016年の徳島県のライトアップ紹介 》

阿波おどり会館

徳島県総合健診センター

天満病院



《 平成29年度 徳島県糖尿病協会のイベント案内 》

活動名	実施日/期間	開催場所
糖尿病ウォークラリー	10月15日	徳島中央公園 数名のグループが体力に合わせて、コース図に従ってチェックポイントを探しクイズをしながら楽しく歩く
ブルーたすき遍路ウォーク2017	11月5日	大日寺境内集合 大日寺～常楽寺 - 国分寺 - 観音寺 - 井戸寺
ブルーライトアップ	11月11日 ～30日	阿波おどり会館 今年もブルーライトウォーキングの後、阿波おどり会館で点灯式
ブルーライトウォーキング	11月11日	徳島市内 徳島中央公園～阿波おどり会館までウォーキング
糖尿病フォーラム徳島2017 市民公開講座 健康標語・川柳表彰式（徳島県医師会）	11月12日	徳島県医師会館 HbA1c・血糖測定、筋力測定、糖尿病療養相談など 市民公開講座：特別講演 社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 相澤 徹先生 健康標語・川柳表彰式

《 編集後記 》

徳島県糖尿病協会会報の第2号を発行することができました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

徳島県糖尿病協会は、徳島県医師会・徳島市医師会と連携し、徳島県の糖尿病対策の強化を行っております。さらなる患者さんへの教育・療養支援の充実、合併症予防や伸展防止を目指して躍進していきたいものです。

また徳島県糖尿病協会は日本糖尿病協会より事業内容が評価され、平成29年度の活動費が加算されました。これは各施設の患者会や徳島県糖尿病協会のイベントが活発に運営されている結果だと思えます。今後とも皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

徳島県糖尿病協会事務局 鈴木麗子

《 連絡先 》

徳島県糖尿病協会
徳島大学 先端酵素学研究所
糖尿病臨床・研究開発センター内
☎088-633-7587
e-mail: dtrc@tokushima-u.ac.jp
URL: <http://tokutokyo.org/>